

農業用ダム研究会シンポジウム

公益社団法人 農業農村工学会



農業農村工学会では、平成28年度に第7期研究期間(平成25年～平成28年の4年間)を終了したことから、この間のダム研究会の研究成果を広く農業用ダム技術者へ周知するとともに、参加者が抱える各ダムの技術課題の解決に向けた糸口を見いだすことを目的に開催します。近年は度重なる豪雨や内陸型地震といった自然災害、2011年東北地方を襲ったプレート型巨大地震による大災害を契機として、将来的に地震学が予想する巨大地震への対応といった国土の強靱化を必要とする意識が、国全体に高まってきました。また、第8期は従来の施設工学、ダム工学の知識に加え、保全管理工学という新たな学問体系を構築する期間になると考えており、第7期の成果のとりまとめが重要な位置づけになると考えています。保全管理工学という新たな学問体系の構築にとって大きな契機になることを期待しています。関係者の積極的な参加をお願いします。

平成29年6月23日(金)10時～17時30分

場所 東京都港区新橋五丁目15番5号 交通ビル会議室

参加費 無料 [参加登録はdam2017@jsidre.or.jp](mailto:dam2017@jsidre.or.jp)まで

10:00～開会挨拶

・農業用ダム研究会委員長

京都大学名誉教授

長谷川高士

10:20～17:30 講演

1) 耐震技術の開発

①大規模地震動に対する農業用ダムの挙動解析手法(液状化含む)

10:20(1)フィルダム地震応答解析における地盤の効果と

堤体相互作用 京都大学名誉教授 青山成康

10:40(2) ベントナイト系遮水材を用いたアースフィルダム(ため池)

の耐震性評価 神戸大学教授 河端俊典

11:00(3) 1g場および遠心場でのフィルダム振動模型実験による

振動特性 東京農工大学教授 向後雄二

2) ダムの再開発

①ダム堤体嵩上げ

11:20(4)コンクリートダム嵩上げ工事に伴う温度応力ひずみの計測方法とひびわれ防止対策

→ダムコンクリートに埋設されたひずみ計による有効ひずみの算定→
三重大学名誉教授 浅井喜代治

②地球温暖化適応策

11:40(5) ため池の事前放流による洪水軽減に関する研究

神戸大学教授 田中丸治哉

12:00(6) 洪水比流量曲線から見た洪水流出の経年的変化

岡山大学教授 近森秀高

3) 地下ダムの開発

①地下ダム開発に係る設計・施工

13:20(7) 地下ダムにおける地下水質モニタリングと水質保全管理

農研機構ユニット長 石田 聡

4) ダムの保全管理

①堤体の安定性(力学的・水理的)の確保と対策

13:40(8) 粒子フィルタと弾性波探査シミュレーションによる土構造物

内の劣化箇所同定 京都大学教授 村上 章

②保全管理・運用

14:00(9) ダムにおけるコンクリート構造物の機能保全対策に関する研究

鳥根大学名誉教授 長束 勇

14:20(10) 地震観測記録による農業用ダムの地震時挙動の検討

農研機構領域長 増川 晋

14:40(11) 土のキャピラリーバリア機能を利用したため池汚染

泥土・廃棄物等の低盛土式保管工法の実装化検討

新潟大学教授 森井俊廣

15:00-15:20 (休憩)

5) ダムの設計・施工

①基礎地盤の強度評価・遮水性の評価

15:20(12) 原位置岩盤せん断試験における応力経路と発現強度の解析

岐阜大学准教授 西山竜朗

6) 東日本大震災被災ダム

15:40(13) ダムの加速度記録から見た実際の進藤挙動について

関西大学教授 小林 晃

16:00(14) 藤沼ため池の被害調査と耐震性簡易検証手法

東京大学名誉教授 田中忠次

16:20(15) 大柿ダムの被災状況と復旧対策

NTCコンサルタンツ部長 藤井 睦

16:40(16) 大切畑ダム(ため池)の被災状況と今後の課題

三祐コンサルタンツ部長 渡部大輔

7) 長谷川委員長 特別講義

17:00 最近の地震活動とダムの耐震性評価(仮)

17:30 閉会